

脳卒中

今年もあと一カ月、と同時にいよいよ冬も本番ですね。
今月は冬期に発症しやすい、脳卒中について解説します。



はじめに

脳梗塞、脳出血、くも膜下出血を合わせて、脳卒中といいます。
脳卒中の死亡者数は年間13万人で死因の第4位ですが、
患者数は約140万人で癌の患者数とほとんど変わりません。
患者数は多いが、死亡率は高くない、つまり後遺症に苦しんでいる
患者さんが多い疾患ということになります。

脳梗塞

脳を栄養している血管が詰まることによって、脳細胞が壊死を起こします。
これが脳梗塞です。脳卒中の中で最も多く、70%を占めています。
これには3つの病型があり、末端の細い血管が詰まることで起こる、
①ラクナ梗塞、比較的太い血管が動脈硬化で狭くなり、やがて血栓ができて詰ま
ることで起こる、②アテローム血栓性梗塞、そして心房細動という
不整脈により心臓内に血栓ができ、これが剥がれて脳の血管を塞いで
しまう、③心原性脳梗塞です。
症状はラクナ梗塞は軽いですが、心原性脳梗塞は太い血管が詰まるため重症で、
死亡率は13%です。

脳出血

穿通枝といわれる、脳を栄養している末端の血管が動脈硬化で脆くなり、やがて
破れることによって起こります。
脳卒中の14%を占めており、死亡率は25%といわれています。

くも膜下出血

脳は大切な臓器なので、硬膜、くも膜、軟膜という3つの膜で覆われています。
くも膜の下には脳を栄養する太い動脈が通っており、この動脈が動脈硬化で
動脈瘤を作り、これが破裂することで起こります。脳卒中の中で占める割合は6%
と発生頻度は低いのですが、脳卒中の中で最も重篤で、死亡率は40%と高く、
30%は重い後遺症を残し、社会復帰できるのは30%といわれます。

症状

脳は部位によって、手足を動かす、言葉をしゃべるなど受け持つ機能が違います。
脳卒中によって脳のどの部位が障害を受けたかにより、その症状が異なります。

代表的な症状は、

- ①意識障害がある。ガーガーといびきをかいて、起こしても全く起きない。
- ②片方の手足・顔の半分に麻痺やしびれが起こる。
- ③呂律が回らない。言葉が出てこない。人の話が理解できない。
- ④麻痺はないのに、フラツキがあって立ち上がれない・歩けない。
- ⑤片方の目が見えない。物が二重に見える。視野の一部が欠ける。
- ⑥くも膜下出血の場合は、経験したことが無い激しい頭痛がする。

などで、これらの症状が前触れ無く、突然現れます。

治療

脳梗塞の発症早期では、血栓溶解剤を使用した血栓溶解療法を行います。
またカテーテルを使って血栓を吸引する治療も近年行われるようになって
きました。

脳出血では、出血の程度が重い場合に血種除去術が行われます。
くも膜下出血は、出血の原因である脳動脈瘤を手術によりクリップで止める、
クリッピング手術や、カテーテルで動脈瘤に詰め物をするカテーテル手術も
最近は行われています。

予防

脳卒中は起こさないようにすることが最も重要なのは、言うまでもありません。
脳卒中の最大の原因は“高血圧と加齢”といわれます。
したがって、血圧のコントロールをきちんとすることが最大の予防になります。
高血圧の治療は血圧を下げるのが目的ではなくて、
脳卒中を予防することが最大の目的です。
その他、動脈硬化の危険因子といわれる、
糖尿病、脂質異常症のコントロールや、
肥満、喫煙、多量の飲酒の改善が必要です。
また、心房細動という不整脈を持っている方は、
ワルファリンのような、強力に血栓を予防する
薬を服用することが必須となります。

